

新出の古写真

明治の大修理を終えた松江城天守

松江城天守は慶長16年(1611)に竣工し、410年を経た現在までその雄姿をとどめ、松江のシンボルとして人々から愛され続けています。天守などの木造建築物は年月を経ると木材が腐朽し、修理が必要となります。そのため何度も改修工事を行い、維持されてきました。

松江城天守もまた明治維新後に大規模な修理を2度行っています。昭和25年(1950)から5年間かけ解体修理をした昭和の大修理、明治27年(1894)に行った明治の大修理です。ただ明治の大修理に関しては残る記録が少ないためその全貌を知ることが困難でした。本展では、新たに見つかった明治の大修理の直後の写真に加え、維持と管理が困難となり大きく損傷した修理前の天守の写真、そして現存する松江城天守が写った最古の写真を紹介し、明治の大修理で修繕された箇所を確認します。



明治の大修理直後の松江城天守

明治27年(1894)6月10日から同年11月18日にかけて、松江城天守の大修理が行われた。腐朽した屋根や破風の取りかえ、柱の建替え21本、瓦の補填13,500枚等の大規模修理であった。この修理では3階の花頭窓の脇に1対の窓を新たに設け、2対の窓とした。新たに設けた窓は昭和の大修理の際に取り除いている。本写真は、漆喰や下見板、屋根等に損傷や色落ちが見られず、附櫓右前方に工具らしいものや天守石垣の左側に石材が見られることから、明治の大修理直後に撮影されたものであろう。撮影した村田正吉は、京橋川沿いの殿町に店を構えた写真師である。

松江城天守古写真(鶏卵紙/個人蔵)

- ・写真寸法：縦20.3cm、横26.3cm(台紙：縦32.0cm、横40.0cm)
- ・台紙表面に撮影者を示す「長州萩小橋筋青雲堂/村田正吉/松江市殿町京橋西河岸」のラベルあり



損壊が進み、修理を待つ天守

松江城の建物で唯一現存する天守は、明治時代半ばになると破損が一段と進んでいく。明治19年(1886)、籠手田安定県知事は松江城天守について「狐狸の巢窟となれるのを修繕を加え」と述べ、修繕の計画を述べる。同21年(1888)5月には5階を修繕しガラス窓にかえる改修が行われる。同25年(1892)8月、暴風雨により天守下層東南隅の屋根が崩落する。これは本写真の正面右側にある入母屋破風の3階屋根部分の損壊部であろう。これらの破損により、2年後の同27年に明治の大修理が行われる。本写真は5階がガラス窓となり、同25年の損壊があること、附櫓の左側の屋根瓦が下ろされ修理を行う直前の様子であることから、明治の大修理に関係するものと推測できる。

松江城天守古写真(鶏卵紙/個人蔵)

- ・写真寸法：縦6.0cm、横9.3cm(台紙：縦6.4cm、横10.6cm)
- ・台紙裏面に、「千鳥城天守閣/松江公園二在り/出雲」と墨書あり



天守が写る最古の写真

本写真は松江城三之丸正面の番所横の堀端から天守に向けて撮影したもので、三之丸の長屋門、石垣上の二之丸には左から御書院、南櫓、御広間、中櫓、本丸には天守と武具櫓が写る。松江城内の建物は明治8年(1875)5月に払い下げの入札が行われ、天守を残して解体された。本写真はそれ以前に撮影されたものであろう。二之丸石垣上の塀は一部倒壊し、右端に写る番所の屋根には穴が開くなど、すでに管理が困難になっていたと想像できる。

松江城古写真(鶏卵紙/館蔵)

- ・写真寸法：縦5.7cm、横9.3cm(台紙：縦6.7cm、横9.3cm)